MITSUBISHI 三菱電機パッケージエアコン

MOTECS
床置形システム

取扱説明書

PFZ－P15FKS－A形
PFZ－P15FKN－A形

本説明書は室内ユニットの取扱方法を記載してあります。

〔もくじ〕　〔ページ〕

取扱説明書内で、安全のために必ず守っていただく項目を ⚠**警告** ⚠**注意** の形で記載しました。

WT03684X01

安全のために必ず守ること

●据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、障害に結びつくもの。

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認すると共に、取扱説明書にそって、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法、お手入れのしかた等を説明してください。

ご使用時に

異常時（異臭・異音・振動大など）は運転を停止して、電源スイッチを切る。
●異常のまま運転を続けると、感電・火災や故障の原因になります。また、操作部にエラーコードが出たり、漏電遮断器がたびたび作動する場合もお買上げの販売店にご連絡ください。

万一、冷媒が洩れても限界濃度を超えないよう換気対策を行う。
●冷媒が洩れると、酸欠事故の原因になります。お買上げの販売店にご相談ください。

お客様自身で分解・据付け・修理・移設・廃棄はしない。
●不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。また、冷媒を大気に放出すると地球を汚染することになります。お買上げの販売店でご相談ください。

濡れた手で電源スイッチを操作しない。
●感電の原因になります。

長時間直接お肌に風をあてない。
●健康を損う。

エアコンおよび操作部を水洗いしない。
●ユニット及び操作部内部に水が侵入して絶縁不良になり、感電の原因になります。

吸込口・吹出口に指や棒などを入れない。
●特にお子さまにご注意を！
内部でファンが高速で回転しており、ケガの原因になります。

据付け時にご確認ください

据付けは、お買上げの販売店または専門業者にご依頼ください。

元電源の取付位置を確認する。

電源は専用回路とし、かつ定格の電圧、遮断器を使用する。
●異電圧や容量の大きい遮断器を使用したり、正しい容量のヒューズの代わりに針金や銅線を使用すると、火災・故障の原因になります。

漏電遮断器を取付ける。
●取付けていないと、感電の原因になります。

室外・室内ユニットは、堅固な場所に水平にかつしっかりと固定されていること。
●ユニットの落下・転倒などによりケガの原因になります。

使用される別売部品は当社指定品であること。
●別売部品は、必ず当社指定のものであること。お客様ご自身で取付け、不備があると感電・火災・水漏れなどの原因になります。
お買上げの販売店にご依頼ください。

操作部付近の温度が40℃以上、0℃以下になる場所、または直射日光が当たる場所、湯・油・蒸気が飛散し操作部に掛かるところには取付けない。

注意

ご使用時に

粉が浮遊する作業場等では使用しない。

●粉じんなどにより機器の故障や健康を損う原因になります。

殺虫剤・可燃性スプレーなどを吹付けない。

●火災・変形等の原因になります。

フィルタなどの着脱のときは、不安定な台に乗らない。

●落下・転倒によるケガの原因になります。

フィルタなどの着脱には、保護具（メガネなど）を着用する。

●目にゴミ・ホコリが入ることがあります。

清掃のときは運転を止め、電源スイッチを切る。

●運転中はファンが高速で回転しており、ケガの原因になります。

室内ユニットの金属部にさわらない。

●フィルタを外したときにケガの原因になります。

室外ユニットの上に乗ったり、物を乗せたりしない。

●落下・転倒によるケガの原因になります。

据付台などが痛んだ状態で放置しない。

●ユニットが落下・転倒し、ケガなどの原因になります。

運転中に冷媒配管に触れない。

●素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。

薬品消毒はしない。

●火災・変形の原因になります。

据付け時にご確認ください

可燃性ガスの洩れる恐れがある場所には据付けない。

●ガスが洩れてユニットの周囲にたまると、発火・爆発の原因になります。

注意

●冷媒Ｒ４０７Ｃ使用機器としての注意点

既設冷媒配管を使用する場合には、配管内の清浄度やガス洩れ防止に留意する。

●フレアは、ガス洩れ防止のため再利用せず、製品に付属のフレアナットに交換して新たにフレア加工してください。
●現地配管途中に溶接部がある場合、溶接部のガス洩れチェックを行ってください。
●配管内部が十分に清浄であることを確認してください。
※鉱油が多量に混入すると冷凍機油劣化等の原因になります。

下記に該当する配管は洗浄するか、新規施工する。

●流用前に圧縮機異常を起した室外ユニットが接続されていた場合。
●室内ユニットまたは室外ユニットを、長時間配管から外し開放状態にしていた場合。
●流用前にＲ２２・Ｒ４１０ＡまたはＲ４０７Ｃの冷媒を使用していない室外ユニットが接続されていた場合。
※ユニットを長期間安心してお使いいただくために、当社別売の配管ドライヤの装着をおすすめします。

**冷媒配管は JIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」のC1220のりん脱酸銅を使用する。
また、管の内外面は美麗であり、使用上有害なイオウ、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミネーション）の付着が無いことを確認する。**

●冷媒配管の内部にコンタミネーションの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。

**据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともロウ付けする直前までシールしておく。
（エルボ等の継手はビニール袋等に包んだ状態で保管）**

●冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分が混入しますと、油の劣化・圧縮機故障の原因になります。

フレア・フランジ接続部に塗布する冷凍機油は、エステル油又はエーテル油又はアルキルベンゼン（少量）を使用する。

●鉱油が多量に混入すると冷凍機油劣化等の原因になります。

液冷媒にて封入する。

●ガス冷媒で封入するとボンベ内冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

Ｒ４０７Ｃ以外の冷媒は使用しない。

●Ｒ４０７Ｃ以外（Ｒ２２等）を使用すると、塩素により冷凍機油劣化等の原因になります。

逆流防止器付真空ポンプを使用する。

●冷媒回路内に真空ポンプ油が逆流し、機器の冷凍機油劣化等の原因になります。

**従来の冷媒に使用している下記に示す工具類は使用しない。
（ゲージマニホールド・チャージホース・ガス洩れ検知器・逆流防止器・冷媒チャージ用口金・真空度計・冷媒回収装置）**

●従来の冷媒・冷凍機油が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。
冷媒中に塩素を含まないため、従来の冷媒用ガス洩れ検知機では反応しません。

工具類の管理は従来以上に注意する。

●冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分等が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。

チャージングシリンダを使用しない。

●チャージングシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

注意

●冷媒Ｒ４１０Ａ使用機器としての注意点

既設冷媒配管を使用する場合には、配管内の清浄度やガス洩れ防止に留意する。

●現地配管途中に溶接部がある場合、溶接部のガス洩れチェックを行ってください。
●配管内部が十分に清浄であることを確認してください。

液冷媒にて封入する。

●ガス冷媒で封入するとボンベ内冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

逆流防止器付真空ポンプを使用する。

●冷媒回路内に真空ポンプ油が逆流し、機器の冷凍機油劣化、能力不足等の原因になります。

従来の冷媒に使用している下記に示す工具類は使用しない。
（ゲージマニホールド・チャージホース・ガス洩れ検知器・逆流防止器・冷媒チャージ用口金・真空度計・冷媒回収装置）

●冷媒中に塩素を含まないため、従来の冷媒用ガス洩れ検知機では反応しません。

チャージングシリンダを使用しない。

●チャージングシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

⚠警告

据付けする際に

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。

●お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行う。

●据付に不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。

台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。

●据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

据付けは、質量に十分に耐えるところに確実に行う。

●強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、事故の原因になります。

電気工事は電気工事士の資格がある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカを使用する。

●電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。

作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気する。

●冷媒ガスが火災に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。

●接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

室内ユニットの端子盤カバー（パネル）を確実に取付ける。

●端子盤カバー（パネル）取付けに不備があると、ほこり・水等により火災・感電の原因になります。

据付けや移設の場合は、冷媒サイクル内に指定冷媒（主冷却装置はR407C沸騰冷却装置はR410A）以外のものを混入させない。

●空気などが混入すると、冷媒サイクル内が異常高圧になり、破裂などの原因になります。

改造は絶対にしない。

●修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。
改造したり修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

お客様自身で移動・再据付けはしない。

●据付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
お買い上げの販売店または専門業者にご依頼ください。

設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。

●冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

⚠注意

●据付けをする前に

特殊環境には使用しない。

●油（機械油を含む）、蒸気、硫化ガスなどの多い場所、海浜地区など塩分の多い場所、積雪により室外ユニットが塞がれるところに使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れの恐れがある場所へは据付けない。

●万一ガスがユニットの周囲にたまると、発火・爆発の原因になることがあります。

積雪・寒冷地域に設置する場合、据付時に積雪および寒冷地区に対する対策を実施する。

●積雪・寒冷地域での設置時には、機器によって対策が必要となることがあります。本書に対策の記載がある場合は、積雪および寒冷対策を実施してください。

⚠注意

●据付け工事をする前に

製品の運搬は十分注意して行う。

●２０kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外を持って製品を動かさないでください。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

梱包材の処理は確実に行う。

●梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用していますので、放置状態にしますとさし傷等のケガをする恐れがあります。

冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。

●不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露タレ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因となります。

ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するように施工し、結露が生じないよう保温すること。

●配管工事に不備があると水漏れし、天井・床その他家財等を濡らす原因になります。

据付台等が傷んだ状態で放置しない。

●傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になります。

エアコンを水洗いしない。

●感電の原因になります。

フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付けること。

●傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガ等の原因になります。

●電気工事をする前に

設置場所（水気のある場所等）によっては漏電遮断器を取付ける。

●漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

電源配線は、電流容量に合った規格品の電線を使用すること。

●漏電や発熱・火災の原因になります。

電源配線は張力が掛からないように配線工事をする。

●断線したり、発熱・火災の原因になります。

アース工事を行う。

●アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

正しい容量のブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器<開閉器＋B種ヒューズ>・配線用遮断器）を使用する。

●大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や火災の原因になります。

●試運転をする前に

運転を開始する１２時間以上前に電源を入れる。

●電源を入れてすぐ運転開始すると、故障の原因になります。シーズン中は電源を切らないでください。

パネルやガードを外した状態で運転をしない。

●機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

エアフィルタを外したまま運転をしない。

●内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

濡れた手でスイッチを操作しない。

●感電の原因になります。

運転中の冷媒配管を素手で触れない。

●運転中の冷媒配管は流れる冷媒状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷ややけどになる恐れがあります。

運転停止後、すぐに電源を切らない。

●必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。

1. 運転のしかた

冷却装置の運転方法について説明します。

運転／停止の切換

■主冷却装置の、運転／停止の切換えは、操作部の運転／停止ボタンを押してください。

設定温度の切換

■主冷却装置の温度設定は操作部の設定温度ボタンの△▽ボタンを操作して調整してください。

■既設空調機と併用して使用する場合は、既設空調機と主冷却装置との設定温度に差をつけることをお勧めします。

（例えば、既設空調機がJ140の場合は、既設空調機の設定温度を30℃、主冷却装置の設定温度を25℃など）

運転（モード）切換

■運転切換えボタンの操作により冷房モードとしてください。

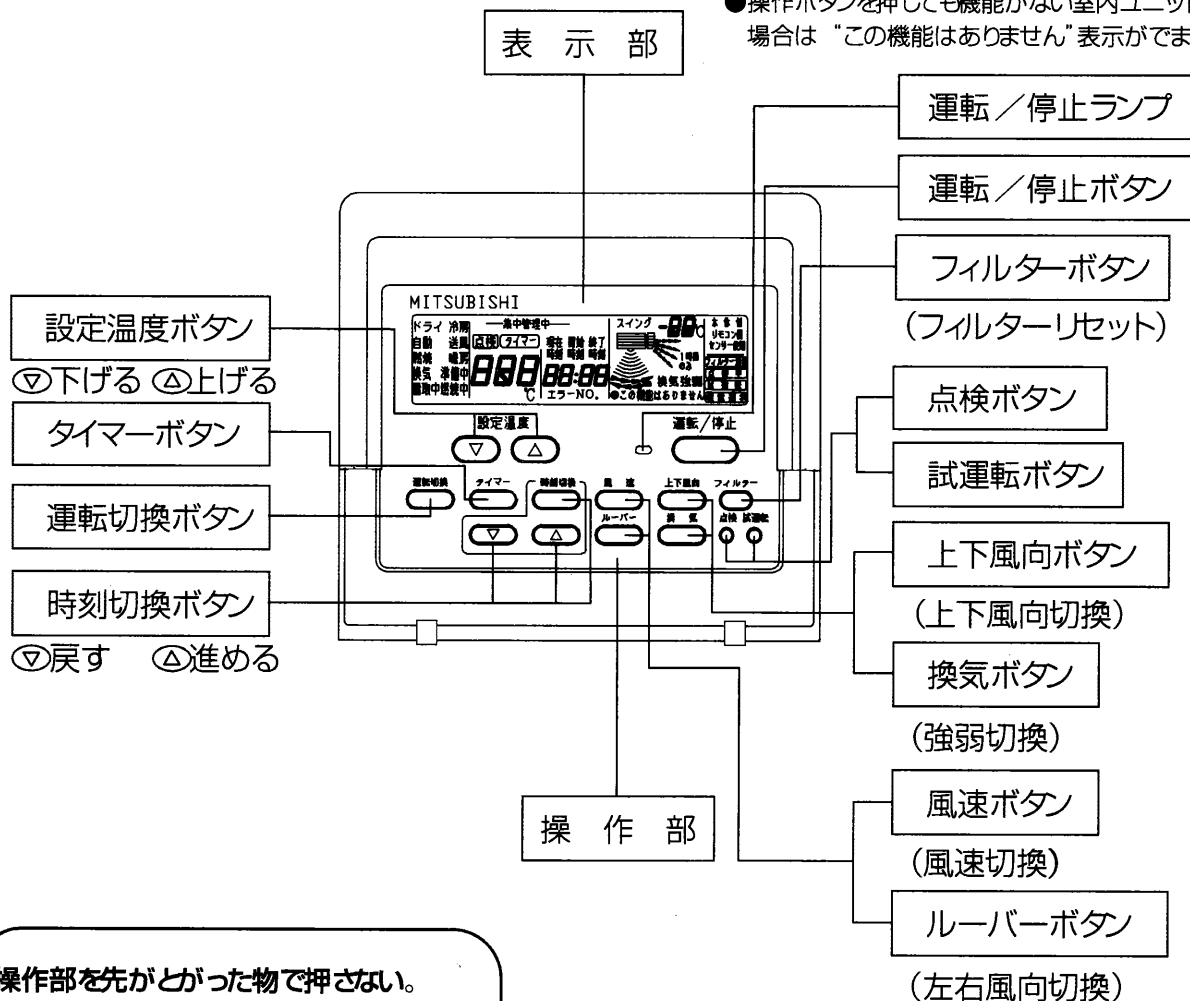
フィルタサイン／リセット

■操作部にはリセットボタンとフィルタサイン表示機能がありますが、本空調機では機能しません。

その他の機能

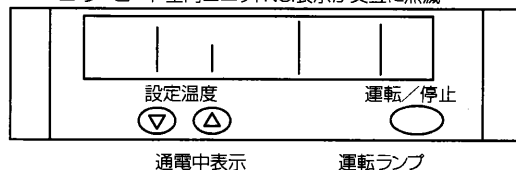
■操作部のボタンで「運転／停止」以外のボタンについては、試運転時以外は使用しないでください。

操作部

●説明のためすべての表示内容を示しています。
●停止中は ◉ 表示、運転中は運転ランプ、◉表示、設定温度、風速、風向、室温などが表示されます。（◉：通電中を示す）
●操作ボタンを押しても機能がない室内ユニットの場合は "この機能はありません" 表示がでます。

操作部を先がとがった物で押さない。
故障の原因になります。

禁止

操作部ガイド

● "HO" 表示（初期自動点検中）
電源を入れたときと停電が復帰したとき… 約 2分間お待ちください。
●運転ランプ・エラーコードの点滅
点滅しているときは点検が必要です。
エラーコードを確認の上、シェルターメーカ様へご連絡ください。

2. お手入れのしかた

お手入れのまえに

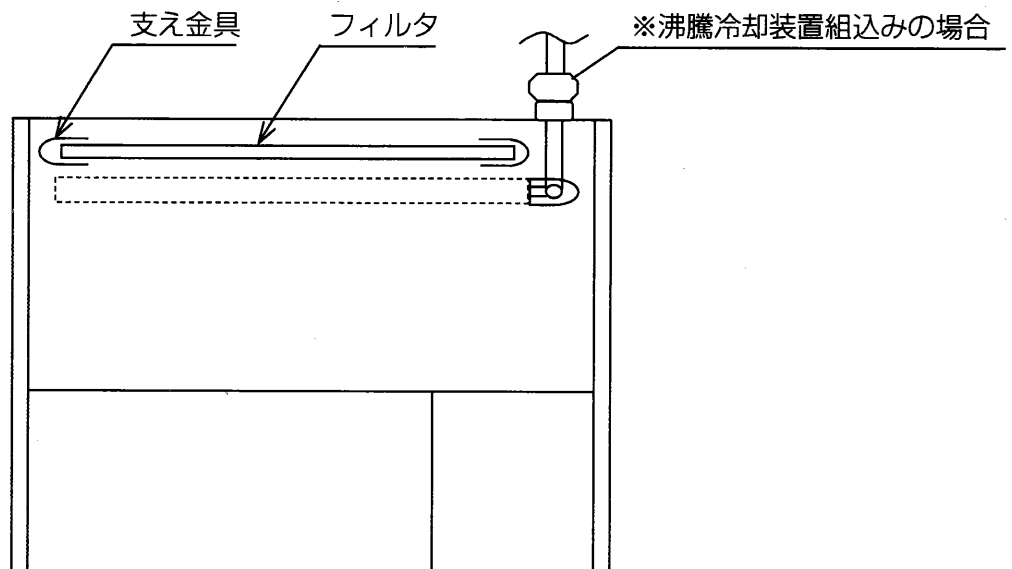
⚠注意	必ず、電源を「切」にしてください。 内部のファンが回転したまま作業をする とケガの原因になります。

室内ユニットの清掃

- ■ やわらかい布でから拭きをしてください。
- ■ リモコン線をひっぱったり、ねじったりしないでください。また、リモコンケースは取外さないでください。
- ■ 手あか、油類の場合は、家庭用の中性洗剤（食器用または洗濯用）を使用し、中性洗剤などが残らないようにふき取ってください。
- ■ ガソリン・ベンジン・シンナー・みがき粉・酸性／アルカリ性洗剤などは製品を傷めますので、絶対に使用しないでください。

フィルタの清掃

(1)フィルタを取外す

■室内ユニット本体上部（下図参照）にフィルタが取付けられています。フィルタを手前に引くと、フィルタが外れます。

⚠注意	フィルタを取外すときは目にホコリが入らないように注意してください。 また、踏台に乗って行う時は、転倒しないように注意してください。

⚠注意	フィルタを取外した状態で運転をしないでください。 内部にゴミなどが詰まり、故障の原因になります。

(2)フィルタのホコリを掃除機で吸い取るか、水洗いする。

■汚れがひどいときは、中性洗剤を溶かした、ぬるま湯ですすいでください。

■熱い湯（約50℃以上）で洗わないでください。変形することがあります。

(3)水洗いしたあと、日陰でよく乾かしてください。

■フィルタは直射日光や直接火にあてて乾かさないでください。変形することがあります。

(3)フィルタを元の状態に取付ける。（取外しの逆の手順）

3.「故障かな?」と思ったら

故障かな?	お答えします
よく冷えない。	■フィルタの清掃をしてください。 (フィルタが汚れ、目詰りして風量が低下しているためです) ■室外ユニットの吹出し口・吸込み口が塞がれていませんか? ■収容箱の扉が開いていませんか? ■冷房運転になっていますか? ■設定温度は正しいですか?
水の流れるような音や時々“プシュ”と音がする。	■エアコン内部の冷媒が流れている音や、冷媒の流れが切り換わるときの音です。
“ピシッ”“ピシッ”という音がする。	■温度変化で部品などが膨張・収縮して、こすれる音です。
空調機器から異常な音・振動が発生する。	■機器取付部が強固に固定されていますか? ■異物が入ったり、風路を塞いだりしていませんか?
室内ユニットより白い霧状の水蒸気が出る。	■収容箱の温湿度が高い場合、運転の始めにこのような現象が起こる場合があります。
室内ユニットが結露する。	■シェルタ内に外気侵入がありませんか? ■シェルタと扉が開いていないか点検してください。
室外ユニットより水・水蒸気が出る。	■冷房時に冷えた配管や配管接続部に水滴がつき滴下するためです。
操作部の運転表示が点灯しない。	■電源ブレーカを入れてください。表示部に“◉”が表示されます。
再運転のために停止後すぐに運転・停止ボタンを押したが動かない。	■約3分間お待ちください。 (エアコンを保護するため、止まっています。)
操作部に“HO”の表示が出る。	■初期自動運転(約2分)を行っているためです。
操作部にエラーコードが表示される。	■自己診断機能が作動してエアコンを保護しています。 ※ご自分では絶対に修理しないでください。 エアコンの電源を切り、販売店に製品名・操作部表示内容を連絡してください。

4. 保証とアフターサービス

● 「修理・取扱い・お手入れ」などのご相談は、お買上げのシェルタメーカ様へお申しつけください。

保証内容

■保証内容は、別途シェルタメーカ様と取り交わした「株式会社 NTTドコモ 殿向け MT2000対応冷却システム 機器保守・修理に関する覚書」の記載内容によります。

保証期間 …試運転完了引渡し日から起算して1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

■パッケージエアコンの補修性能部品の最低保有期間は経済産業省の指導により製造打切り後9年です。
■性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは

"「故障かな？」と思ったら"に従ってお調べください。
なお、不具合のあるときは、お買上げのシェルタメーカ様にご連絡ください。

■保証期間中は
前出の覚書きの規定に従って修理させていただきます。
■保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる場合は、ご希望により修理させていただきます。
修理料金は、技術料＋部品代＋（出張料）などで構成されています。

■ご連絡いただきたい内容

1. 品名	
2. シェルタメーカ様名	
3. 形名 製品番号	室内ユニット·室外ユニット共に！
4. お買上げ日	○○年○月○日
5. 故障の状態	できるだけ詳しく（操作部のエラー表示なども）
6. ご住所	設置局名や付近の目印なども
7. お名前 電話番号	

保守点検契約のすすめ

■エアコンを数シーズン使用すると、内部が汚れて性能が低下します。
臭いが発生したり、ゴミやホコリなどによりドレンホースが詰り、室内ユニットから水漏れまたは、異常停止することがあります。通常のお手入れとは別に保守点検契約をおすすめします。

■消耗部品の交換周期目安［交換周期は保証期間を示しているものではありませんのでご注意ください。］
以下に定める部品は摩耗故障期間までの運転時間は20,000時間（日本冷凍空調工業会の標準値）であり、定期的に交換を必要とします。
·空調機の室内ユニット送風機 … 2年（連続運転）
·沸騰冷却装置の室外ユニット送風機 … 2年（連続運転）
·空調機室外ユニット … 4年（圧縮機運転率40%）

5．移設・工事について

移設について

■移設のため冷却装置を取外したり再据付けをする場合は、移設のための専門の技術や工事の費用が必要になりますので、あらかじめお買い上げのシェルタメーカ様にご相談ください。
■据付けや移設時に冷媒を追加充填する場合は、指定冷媒以外のものを混入させないでください。

据付け場所について

次の場所への使用は避けてください。

■可燃性ガスの洩れる恐れがあるところ
■硫黄系ガス 酸 ·アルカリの発生するところ
熱交換器（アルミフィン、銅パイプ）などに腐食を起こす恐れがあります。
■機械油を使用するところ
プラスチック部品の破損、フィルタ劣化、送風機や熱交換器の機能低下を生じ製品寿命が著しく低下します。

⚠注意	●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所には取付けない。 万一ガスが漏れて、ユニットの周囲にたまると爆発の原因になります。

次の環境でご使用の際は、使用を避けるかシェルタメーカ様へご相談ください。

■湿気の多いところ
冷房時に結露しやすくなります。
■積雪の多いところ
室外ユニットへの雪の侵入を防ぐため、防雪ダクト 防雪フードを取付けてください。

室内ユニットは必ず水平に据付けてください。水たれの原因になります。

電気工事について

■電気工事は、電気工事士の資格がある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規定」及び据付工事説明書に従って施工してください。
■電源は必ずエアコン専用回路にしてください。
他の電気製品と回路を共用しますと、ブレーカやヒューズが切れることがあります。
■ブレーカ ・ヒューズなどは正しい容量のものをご使用ください。

⚠注意	●アース工事を行う。 アース工事は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアースに接続しない。 アース工事に不備があると、感電の原因になります。
	●据付場所（水気のある場所など）によっては、漏電遮断器を取付ける。 ●漏電遮断器が取付けられていないと、感電の原因になります。

運転音にも配慮を

■据付けにあたっては、冷却装置の質量に充分に耐え、振動が増大しない場所を選んでください。
■室外ユニットの吹出口からの冷温風や運転音が隣家の迷惑にならない場所を選んでください。
■室外ユニットの吹出口の近くには物を置かないでください。性能低下や運転音増大のもとになります。

6．仕様

PFZ-P15FKS-A

主冷却装置

区分		項目	単位	値
電源				三相・２００V　５０Hz／６０Hz
性能	顕熱冷房	顕熱冷房能力	kW	15.0（4.5～15.0）
		定格消費電力	kW	5.67/5.76
		運転電流	A	17.79/17.88
		力率	%	92/93
室内ユニット		室内ユニット形名		ＰＦＺ－Ｐ１５ＦＫＳ－Ａ
		外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	1680×800×600
		外装	－	溶融亜鉛メッキ鋼板
		送風機（形式×個数）	－	シロッコファン×2
		電動機出力×個数	kW	0.6×1
		風量	m^3/min	50
		機外静圧	Pa	0
		風向調節	－	
		運転音	dB	60
		製品質量	kg	132
		ドレン配管サイズ	－	ＰＴ１オネジ
室外ユニット		室外ユニット形名		ＰＵＺ－Ｐ１５ＧＡＫ－Ａ
		外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	1,260×1,050×330（+20）
		外装色<ﾏﾝｾﾙ>	－	アイボリー＜５Ｙ８／１＞
	圧縮機	形式×出力×個数	－	全密閉×3.1kW×1
		保護装置	－	温度開閉器
		送風機（形式×出力×個数）	－	プロペラファン×0.08kW×2
		風量	m^3/min	90
		送風機用保護装置	－	温度開閉器
		運転音	dB	48(44)
		製品質量	kg	115
共通事項		冷媒	kg	R407C×5.5
		冷媒配管長（相当長）／高低差	m	30/30（追加ﾁｬｰｼﾞ時40/40）
		延長配管径（液／ガス）	mm	φ9.52/φ19.05
使用温度範囲	冷房	室内		乾球温度20～40℃,相対湿度30～85%,絶対湿度20g/kg以下
		室外		乾球温度-8～43℃

注１：顕熱冷房能力の（ ）内は、能力変化幅を示します。
注２：室外ユニット運転音の（ ）内は、外気温度２５℃以下のときの値です。
注３：寒冷地は別売のエアーガイドで室外ユニット吸込温度-15℃まで運転可能。

性能条件
1．運転特性は以下の条件で運転した場合の数値です。
定格顕熱冷房能力（室内側：乾球30.0℃、湿球18.0℃、外気温度：乾球：35℃）
延長配管５m（相当長）、高低差０m
2．測定条件：無響室、A特性による。

沸騰冷却装置

区分		項目	単位	値
電源				三相・２００V　５０Hz／６０Hz
性能	顕熱冷房	顕熱冷房能力	kW	4.0
		定格消費電力	W	95/95
		運転電流	A	0.34/0.34（室外ユニット）
		力率	%	81/81（室外ユニット）
室内ユニット		室内ユニット形名		ＰＦＺ－Ｐ１５ＦＫＳ－Ａに内蔵
		外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	
		外装	－	
		送風機（形式×出力×個数）	－	
		風量	m^3/min	
		機外静圧	Pa	
		風向調節	－	
		運転音	dB	
		製品質量	kg	
		ドレン配管サイズ	－	
室外ユニット		室外ユニット形名		ＳＹ－Ｐ４２ＵＮ－Ａ
		外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	420×630×598
		外装色<ﾏﾝｾﾙ>	－	<0.5Y 8／0.7GS30>
		〈送風機〉　出力×個数	－	30W×1
		風量	m^3/min	45/45
		送風機用保護装置	－	温度開閉器
		運転音	dB	46/46
		製品質量	kg	29
共通事項		冷媒	kg	R410A×2.4
		冷媒配管長（相当長）／高低差	m	5.0/1.0
		延長配管径（液／ガス）	mm	φ9.52/φ19.05

性能条件
1．運転特性は以下の条件で運転した場合の数値です。
定格顕熱冷房能力（室内外温度差：20℃）
延長配管実長5.0m、高低差1.0m
2．測定条件：無響室、A特性による。

PFZ-P15FKN-A

		項目	単位	値
電源			三相・２００Ｖ　５０Ｈｚ／６０Ｈｚ	
性能	顕熱冷房	顕熱冷房能力	ｋＷ	15.0 (4.5~15.0)
		定格消費電力	ｋＷ	5.67/5.76
		運転電流	Ａ	17.79/17.88
		力率	%	92/93
室内ユニット		室内ユニット形名	ＰＦＺ－Ｐ１５ＦＫＮ－Ａ	
		外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	1680×800×600
		外装	－	溶融亜鉛メッキ鋼板
		送風機（形式×個数）	－	シロッコファン×2
		電動機出力×個数	ｋＷ	0.6×1
		風量	m^3/min	50
		機外静圧	Ｐａ	0
		風向調節	－	
		運転音	ｄＢ	60
		製品質量	ｋｇ	132
		ドレン配管サイズ	－	ＰＴ1オネジ
室外ユニット		室外ユニット形名	ＰＵＺ－Ｐ１５ＧＡＫ－Ａ	
		外形寸法(高さ×幅×奥行)	mm	1,260×1,050×330 (+20)
		外装色＜ﾏﾝｾﾙ＞	－	アイボリー＜５Ｙ８／１＞
	圧縮機	形式×出力×個数	－	全密閉×3.1ｋＷ×1
		保護装置	－	温度開閉器
		送風機（形式×出力×個数）	－	プロペラファン×0.08ｋＷ×2
		風量	m^3/min	90
		送風機用保護装置	－	温度開閉器
		運転音	ｄＢ	48(44)
		製品質量	ｋｇ	115
共通事項		冷媒	ｋｇ	R407C×5.5
		冷媒配管長（相当長）／高低差	m	30/30（追加ﾁｬｰｼﾞ時40/40）
		延長配管径（液／ガス）	mm	φ9.52/φ19.05
使用温度範囲	冷房	室内	乾球温度20～40℃,相対湿度30～85%, 絶対湿度20g/kg以下	
		室外	乾球温度-8～43℃	

注１：顕熱冷房能力の（　）内は、能力変化幅を示します。
注２：室外機運転音の（　）内は、外気温度２５℃以下のときの値です。
注３：寒冷地は別売のエアーガイドで室外ユニット吸込温度-15℃まで運転可能。

性能条件
1．運転特性は以下の条件で運転した場合の数値です。
定格顕熱冷房能力（室内側：乾球30.0℃、湿球18.0℃、外気温度：乾球：35℃）
延長配管５ｍ（相当長）、高低差０ｍ
2．測定条件：無響室、Ａ特性による。

7．フロンの回収および破壊のシステム

フロンの放出禁止

◆みだりに業務用冷凍空調機器からフロンを放出することはできません！
（違反した場合、１年以下の懲役又は５０万円以下の罰金を課せられます）
◆特定製品を廃棄しようとする者は、それぞれ定められた業者に引き渡し、かつ処理費用を負担しなければなりません。
◆業務用冷凍空調機器からフロンを回収する業者は都道府県知事の登録が必要となります。
◆回収したフロンを破壊する業者は、主務大臣（経済産業大臣、環境大臣）の許可が必要となります。